

東京での社会人生活中に、東日本大震災を経験。テレビなどで見た救助の様子が脳裏に焼き付き、自分の価値観が変わっていくとともに「一つの命に対しての重さ」について考えるようになりました。親族に、消防士や医療関係者がいたことから、消防士を志すようになり、救急救命士の専門学校へ。そして、縁あって伊勢に。

「命を守る」ために自分ができる可能性を広げるため、救急救命士としての役割を軸としながら、さまざまな消防の仕事や資格取得にチャレンジしています。

救急救命士として、主に救急業務に従事しています。救急車には、救急救命士が必ず乗車するため、多いときには1日10回程度出動することもあります。特に、熱中症が多くなる時期は、出勤回数も多くなります。同じ状況の現場は二度はなく、勉強が尽きることがありません。救急救命士でなければできない処置もあり、命を守るためには、知識と経験、そして使命感が欠かせません。

私の仕事



伊勢市消防署警備第2救急係
輪島 亜由美さん

採用：平成29年度
配属歴

平成29年	消防署警備第1救急係
令和3年	消防署警備第2救急係

最前線で人命救助ができること

火災の出動では、消防士として、救急救命士として、機関員(車の運転手)として、それぞれ臨機応変な現場対応を行います。体力勝負の職場と思っていました。出動待機中、日中は事務処理、夜間は、資機材チェックやロープ結索などの基礎的な訓練など、事務処理能力や指先の繊細さも必要です。

どんな災害にも対応できる消防士を目指し、チャレンジを続けています。

オンとオフ

消防は、常に24時間災害に備え、緊張し待機しているイメージでしたが、働き出してから、程よい緊張感を持ちつつ、緊急時と待機中のオン・オフの使い分けができるようになりました。

休暇は、取得しやすいと思います。救急救命士の全体のバランスを考え、

「私、消防が好きなんで...」とつぶやいた言葉に頼もしさを感じます。



取得するように心掛けています。職場には「持ちつ持たれつ」という雰囲気があり、子どもがいる同僚への配慮も欠かせません。

女性の職域を広げるために

伊勢市消防本部は、まだ女性が少数です。女性が活躍できる業務や現場

を示し、可能性を広げていくことで、後輩への道しるべとなるよう、さまざまなことや資格にチャレンジして、消防職員としての自分も高めていきたいと思っています。

受験を考えている人へのメッセージ

伊勢市は全国でも有数の観光地であり、日本の伝統と文化を多く残す土地柄です。

伊勢の風土を守りつつ、これからの新しい時代を背負う役割を一緒に担いましょう。



懸垂は苦手ですが、体力づくりは欠かせません。

「消防士あるある」を聞いてみました

- 道を聞かれて、方角で伝えてしまいがち
- 地図を頭に入れていないので、右折左折ではなく、方角で言ってしまう。
- 買い物に行くと、日持ちするお菓子を探してしまいがち
- 非常時に持参できるよう、準備しています。チョコレートは必須。
- この道は緊急車両で通れるかな、と迷ってしまうが、渋滞や工事情報などの道路情報も気にしています。